

一般16

肺血栓塞栓症の予防対策実施率

$$\text{肺血栓塞栓症の予防対策実施率} = \frac{\text{分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された退院患者数}}{\text{肺血栓塞栓症発症リスクレベル「中」以上の手術を実施した退院患者数}}$$

肺血栓塞栓症の予防対策実施率とは 肺血栓塞栓症とは、下肢や腹部でできた血の塊(血栓)が肺に行く血管(肺動脈)に詰まる病気です。予防には血液凝固を抑える薬剤を使用したり、弾性ストッキングなどを利用することがあります。リスクの程度が一定以上ある手術の時に、予防対策がなされた割合を表しています。

指標の説明 肺血栓塞栓症は、大きな手術後、ベッド上安静を長くしている場合に発症しやすいとされています。今回の指標では、手術のリスク分類を行い、中リスク以上の手術の前後で対策が行われている率を測定しました。対策に積極的に取り組んでいる病院は率が高くなります。血液凝固を抑える薬剤(抗凝固剤)を使用できない患者さんや弾性ストッキングを下肢に着用できない患者さんもありますのでこのような患者さんが多い病院では率が低くなります。より高い値を目指しています。

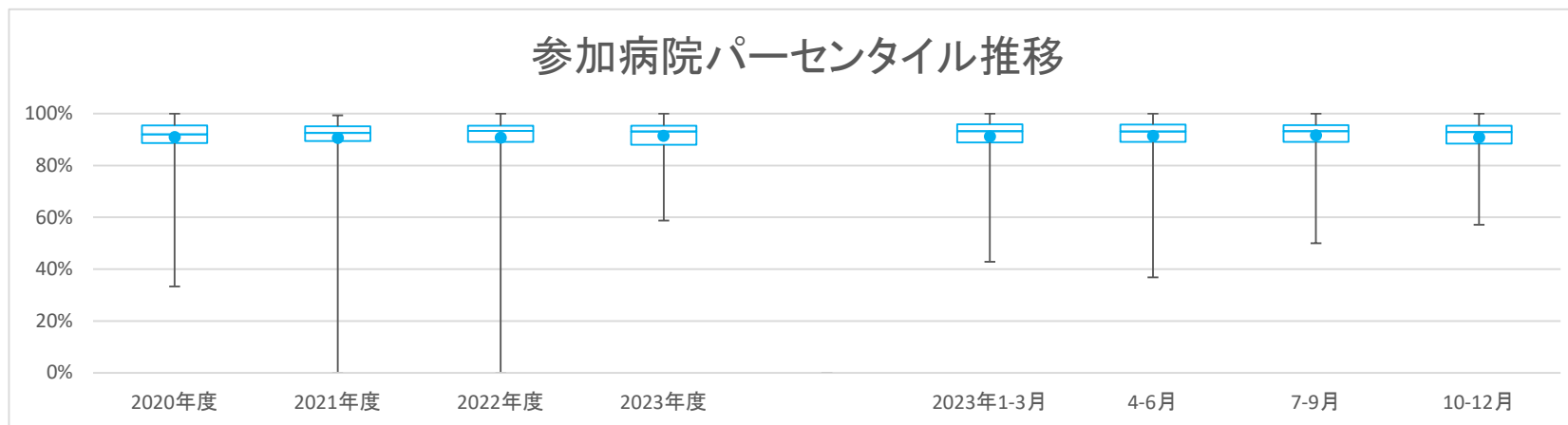
計算について	参考としたガイドライン等	日本循環器学会等 https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2017/09/JCS2017_ito_h.pdf
	データ除外	なし
	補正などの計算方法	なし
	データ基準日	2024年1月25日

一般16

肺血栓塞栓症の予防対策実施率

データのまとめ	対象病院群	精神科標榜なし、総合病院精神科無床、総合病院精神科有床							
	調査期間	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
	データ登録病院数	149	153	148	149	140	146	146	139
	分母合計	183234	191714	193241	151175	46384	50161	49730	51284
	75パーセンタイル	95.4%	95.1%	95.3%	95.4%	95.9%	95.8%	95.6%	95.3%
	中央値	91.9%	92.6%	93.3%	93.2%	93.2%	93.1%	93.2%	92.9%
	25パーセンタイル	88.6%	89.4%	89.1%	88.0%	88.9%	89.1%	89.1%	88.5%
	平均値	91.0%	90.7%	90.8%	91.4%	91.2%	91.4%	91.6%	90.9%
	平均値(0を除く)	91.0%	91.3%	91.4%	91.4%	91.2%	91.4%	91.6%	90.9%

【時系列】 ●は平均値、他は上方から最大値、75パーセンタイル値、中央値、25パーセンタイル値、最小値 (2014年7月開始)



【直近データ分布】

